

# 林業ミニ情報 No.162

令和3年5月

- 1 北茨城市立華川中学校で森林・林業体験学習が開催される。……………1  
(常陸太田林業指導所 荷見)
  
- 2 森林ボランティア養成講座が開催される。……………2  
(水戸林業指導所 山口)
  
- 3 マツ材線虫病(松くい虫)の予防をお忘れなく。……………4  
(林業技術センター 綿引)



### R3.普及三二情報(令和3年5月)

(常陸太田林業指導所 荷見 靖)

タイトル	北茨城市立華川中学校で森林・林業体験学習が開催される
年月日	令和2年11月24日(火)・令和3年1月19日(火)
場所	北茨城市華川町地内 民有林
内容	<p>北茨城市華川中学校は、全校生徒45人の小さな学校であるが、毎年1年生を対象に森林愛護体験学習を実施しています。当林業指導所では、平成25年度から間伐体験と木工工作体験の指導を行っており、今年度で8年目となります。</p> <p>本体験学習は、森林の講話や県産木材を活用した木工工作体験(お箸づくり)などをおして、森林の働きを知り、森林を大切にする心を育て、森林・林業への理解を深めること、間伐の伐採作業を通して、職業体験学習へのステップとすることを目的として実施しています。</p> <p>また、同校は、来年度合併が決まっており、最後の年となることから、木工工作体験では、コースター作りも併せて行いました。</p> <p>林業指導所としては、間伐実施箇所の確保(森林所有者との協力)や、事前の準備(選木や機材の準備等)、当日の間伐体験指導などを行っています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="416 1200 874 1541" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="932 1200 1390 1541" data-label="Image"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="528 1565 756 1603" data-label="Caption"> <p>間伐体験の様子</p> </div> <div data-bbox="1102 1565 1337 1603" data-label="Caption"> <p>森林講話の様子</p> </div> </div>
今後の期待	<p>華川中学校は、今年度末をもって磯原中学校に統合されるため、今年度が最後の森林愛護体験学習となりますが、本事例のように学校林のない学校においても、地域の森林所有者と協力することで、間伐等の体験学習等を実施することができ、生徒が森林や林業の役割について、学習する機会を持つことができました。</p>

### R3.林業ミニ情報(令和3年5月)

(水戸林業指導所 山口 晶子)

タイトル	森林ボランティア養成講座が開催される
年月日	令和3年3月6日(土)
場所	水戸市全隈町地内(水戸市森林公園百年桜の森)
内容	<p>去る3月6日土曜日、水戸市全隈町地内の水戸市森林公園内百年桜の森を会場として、公益社団法人 茨城県緑化推進機構主催による「森林ボランティア養成講座」が開催され、水戸林業指導所は伐倒や植栽の技術指導の講師を依頼され、当日指導を実施しました。</p> <p>この取り組みは、森林の役割と森林整備の大切さへの理解を得て、緑化の普及・啓発と新たな担い手となる人づくりを進めることを目的に、株式会社とりせんの協賛、水戸市の後援を受けて実施しました。</p> <p>当日は天候にも恵まれ、日頃から森林整備ボランティア活動を実施している県央地区3団体の方々、来賓・スタッフ合わせて42名が参加しました。</p> <p>最初に、林業普及指導員による森林整備作業の講習を行いました。その後、参加者が3つの班に分かれ、普及指導員等の指導を受けながら、アカマツやサクラの枯損木の伐倒、アカマツの枝打ちなどの活動に汗を流しました。最後に、株式会社とりせんから寄贈されたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの苗木16本の記念植樹を行いました。</p> <p>これまで、土壌条件が悪く、サクラの生育不良木が多数残存し、手入れが行き届かず、来訪者もほとんどいなかった百年桜の森でしたが、およそ2時間の活動で、明るくきれいな森林となりました。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サクラ枯損木伐倒の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>松の枝打ちの様子</p> </div> </div>





サクラ枯損木伐倒の様子



クロマツ記念植樹の様子



参加者の皆さん

**普及成果**

参加したボランティアの皆さんは、コロナ禍により森林整備活動回数が制限されていたようで、今回は、チェーンソーを使った枯損木の伐倒作業を思う存分でき、大きな達成感を得たようでした。

今回参加した方々のみならず、水戸市森林公園を利用する多くの方々に、きれいに整備された百年桜の森に来訪いただき、森林整備の大切さを理解いただけることを期待しています。

当指導所では、今後ともこのような活動を通して、地域の平地林・里山林の再生に向けての取組を積極的に支援していきたいと考えています。

## R3.普及ミニ情報(令和3年5月)

(林業技術センター 綿引健夫)

タイトル	マツ材線虫病(松くい虫)の予防をお忘れなく
年月日	令和3年4月
場所	県内全域
内容	<p>昭和50年代、県内のマツ林は、マツ材線虫病(松くい虫)によって急激に枯れていきました。年配の方は、青々と茂っていたマツ林がひと夏のうちに真っ赤に枯れ、数年後には、表皮が剥がれ落ちて白い材がむき出しになったまま立ち続ける様が、まるで葉を落としたシラカバの林のように見える無残な光景を覚えていることと思います(写真1)。</p> <p>当時、茨城県には、マツの老大木がたくさんありましたが、それらは、ほとんど枯れてしまいました。薬剤防除が行われなかった内陸部のマツ林も、公園や庭木のマツもどんどん枯れていったので、薬剤散布による予防法が急速に普及しました。</p> <p>やがて、マツ林の減少とともに被害量も減り、松枯れを目にする機会も当時とは比べ物にならないくらい減りました。</p> <p>「のど元過ぎると熱さを忘れる」のが人の常で、周囲に松枯れが見られなくなると、危機感も薄れ、予防対策もだんだん手抜きになり、やらなくなった人も増えているようです。</p> <p>しかし、今でもこの病気は県内に居座り、毎年3,000m<sup>3</sup>前後のマツが枯れています。45坪の一般的な木造住宅に使われる木材は、約29m<sup>3</sup>といわれますので、住宅100軒分余りの木材量に相当するマツが毎年枯れているということです。これは、ピーク時の250分の1ほどの量ですが、病気の発生源は、未だに県内全域でくすぶり続けています。</p> <p>周囲に被害木が無ければ、確かに感染のリスクは減りますが、この病気を媒介するカミキリムシは、2km位飛ぶことができます。また、カミキリムシが入った枯れマツが切り倒され、近くに運ばれてくるかもしれません。予防しなくても枯れなかったのは、「たまたま」であって、病気が根絶しない限り、安全ではないのです。</p> <p>今、新型コロナウイルスのために、マスクの着用や手洗いの徹底、三密の回避など、全国民が新しい生活様式の実践を余儀なくされています。感染者が減ってきたからといって手を抜けば、たちまち感染が拡大することは、誰もが容易に想像できるでしょう。</p> <p>これと同じことが、マツ材線虫病にも言えます。大切にしているマツを枯らさないためには、毎年、適時適切な予防対策が必要なのです。</p> <p>庭木などのマツに対して、一般的に行われる予防対策は、次の通りです。</p>

スミパイン乳剤の 150～200 倍液を、毎年 3 回、茨城県内では 6 月 1 日、6 月 20 日、7 月 10 日頃（2 回の場合は、6 月 10 日、6 月 25 日頃）を目安に、枝葉全体に、薬液がしたたり落ちる程度散布します。

この殺虫剤の散布は、病気の原因のマツノザイセンチュウ（以下、線虫）という微生物が、マツノマダラカミキリの成虫（以下、カミキリ）に乗って健全なマツに運ばれ、カミキリがマツの新梢の皮を食べた時にできた傷跡からマツに侵入するため、新梢に飛んできたカミキリを殺して、線虫の侵入を阻止するのが目的です（写真 2）。

線虫は、幹からは入らないので、薬液は、幹表面ではなく、梢全体によく掛けるようにしてください。

薬液の濃度は、毛虫などに使う時よりも濃いので、マツ以外の樹木に掛かると、ひどい薬害を起こすことがありますから、マツだけに掛けるように注意してください。また、魚に対する毒性も強いので、鯉や金魚を飼っている池などに入らないように注意してください。

散布の時期も重要です。この時期は、植木屋さんも仕事が立て込みますので、後回しにされて、時機を逸しないように注意してください。高さ 5m くらいまでの木なら、手動の器具で十分散布できます。

盆栽などの鉢植えのマツは、6 月～8 月の間、カミキリが侵入できない網室などに入れておけば、薬剤散布を省略できます。



写真 1 かつて県内各地で見られた、樹皮が剥がれ落ち、白い材がむき出しになった枯れマツの林。



写真 2 新梢の樹皮を食べるマツノマダラカミキリ。病気を起こす線虫は、この傷口から侵入する。

#### 今後の期待

マツ林が減って被害が目立たなくなり、一般に関心が薄れてきたマツ材線虫病について、再度注意を喚起し、庭木などの身近なマツの正しい予防方法を普及することは、本病害の発生源を減らし、被害の鎮静化に寄与する。